



敗戦者 **plus!** 図鑑

—シンオウ制覇—



































































スモモ：「頑張ってください！トレーニングに耐えるなら、  
またチャレンジするチャンスを与えますよ！」

シンオウ地方の最強のトレーナーになるため、少年たちは旅をしながらジムに挑戦している。しかし、彼らはジム戦失敗したらこういう「個人指導」があるルールを知らなかった。敗者は必ずジムリーダー本人に鍛えられる。

一見良い話み見えるが、これだけの体格差をつけられたら、彼らはおもちゃ以外にならない。運動でたくさん汗をかいたスモモの足裏は、ボールのトレーニング場所になる。

パール：「汚くて臭いっ！足指あともう一本…ああもうー！」

スモモ：「あら、挑戦失敗です。罰として足指シャトルランもう1000回です！」

スモモは広げた足指を合わせたあげく、その汗蒸れによってパールは全身で洗礼を受けた。まだ1000回往復しないとけないと思ったら、少年の心は崩れる寸前。

一方ダイヤはスモモの股間に地面に押し付けられ、加圧トレーニングを行わている。体操服あっても、彼の体はあの秘密の口に陥って、いつ呑み込まれてもおかしくない。

ダイヤ：「お笑いに下ネタを入れるなんて全年齢向けじゃないよ！」



少年たちの精神を鍛えるため座禅中のスモモ。

仏男子になったダイヤは体操服を越え股間に陥り、  
気だるくて動く気しない。

一方パートナーであるパールは歯を食いしばっている様子。

小さな金髪少年は必死で裸足少女の巨大な足壁を這いのぼっているから、  
全身ほこりまみれになってしまった。

パール：「くそっ！必ずこっから出るんだ！」

スモモ：「メンタルトレーニング中でサボるのはダメです！」

ちゃんと土からの自然の匂いを感じないといけません！」

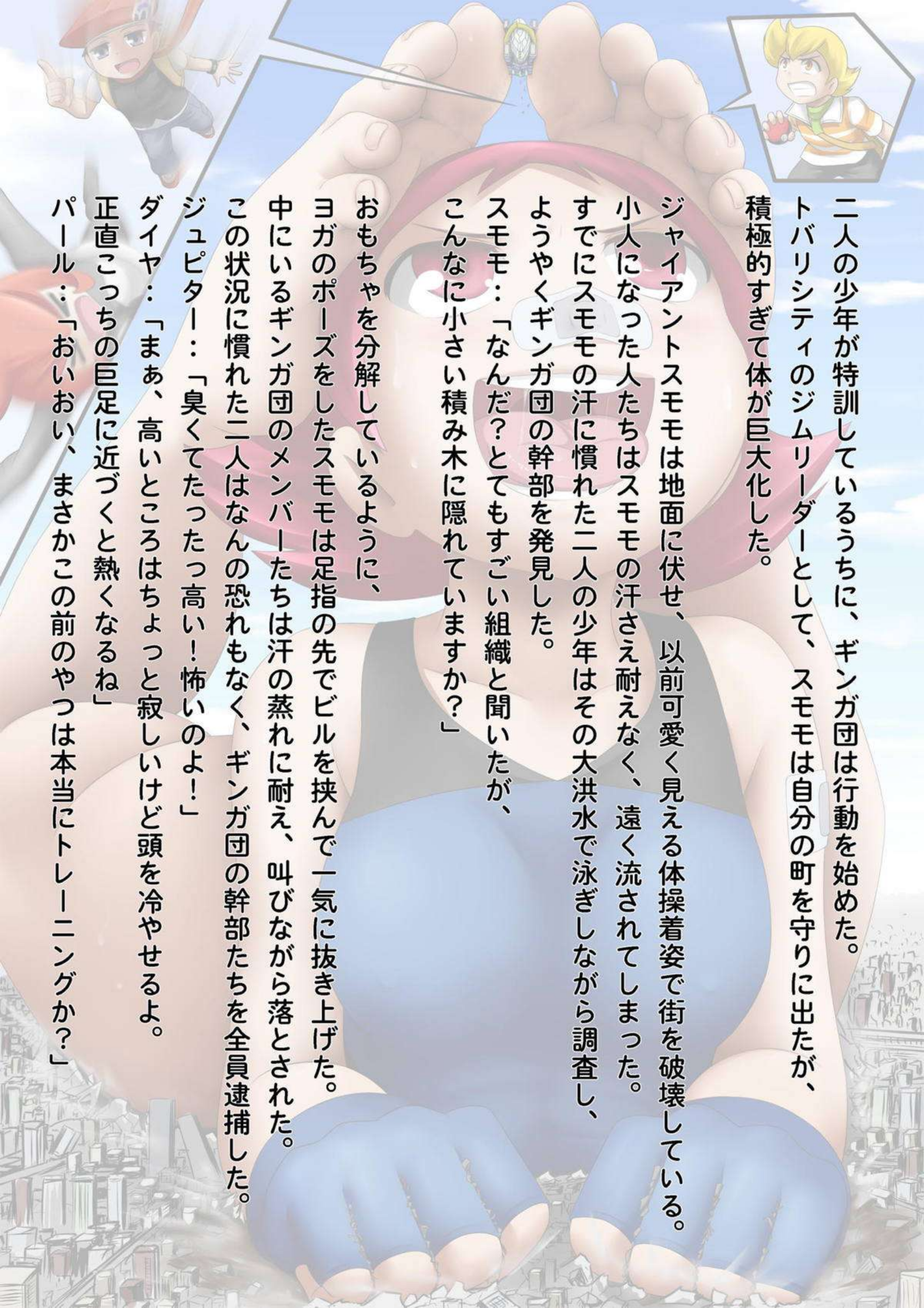
パール：「自然の匂いだって？足の臭い以外は何も感じてないよ！」

スモモ：「本当に根気がないですね。」

せっかくスズナさんも見学させてもらいましたのに♡」

スズナ：「スモモちゃんはいいつも通り野性味だね…」





二人の少年が特訓しているうちに、ギンガ団は行動を始めた。

トバリシティのジムリーダーとして、スモモは自分の町を守りに出たが、積極的すぎて体が巨大化した。

ジャイアントスモモは地面に伏せ、以前可愛く見える体操着姿で街を破壊している。

小人になった人たちはスモモの汗さえ耐えなく、遠く流されてしまった。

すでにスモモの汗に慣れた二人の少年はその大洪水で泳ぎしながら調査し、ようやくギンガ団の幹部を発見した。

スモモ：「なんだ？とてもすごい組織と聞いたが、こんなに小さい積み木に隠れていますか？」

おもちゃを分解しているように、

ヨガのポーズをしたスモモは足指の先でビルを挟んで一気に抜き上げた。

中にいるギンガ団のメンバーたちは汗の蒸れに耐え、叫びながら落とされた。

この状況に慣れた二人はなんの恐れもなく、ギンガ団の幹部たちを全員逮捕した。

ジュピター：「臭くてたった高い！怖いのよ！」

ダイヤ：「まあ、高いところはちよっと寂しいけど頭を冷やせるよ。

正直こっちの巨足に近づくと熱くなるね」

パール：「おいおい、まさかこの前のやつは本当にトレーニングか？」





悪魔のように誘惑してくるスイーツに、スズナとユキメノコは止まらなくよだれを流した。野性味のスモモに対して、

こっちの特訓は明らかに少女でピュアな雰囲気がある。

スズナ：「ふふっ、まさに天才的な発想だ！

後輩君たちに氷に対する適応能力を生かしている同時に、自分の忍耐力も鍛えられるね！

ああ…これ以上は我慢できないの！」


パール：「ま…待って！」

本当に食べたら罰金だ！100万罰金だ！」

ダイヤ：「なんて素晴らしい！」

このような氷天で特訓するとは。毎日できたらいいな……」






うふふ、また新しいチャレンジャーが来たの？  
自信満々の少年二人…とてもいいわ。  
巨大なるあたしの姿を見ても一歩も下がらないなんて、  
本当に期待させるね〜




あら、新しいおもちゃが  
もらえると思ったのに、  
四天王のカトレアにも敵  
わないなんて、  
ちよつとがっかり…  
なんて言った？  
あ、あたしは別にこの子  
たちを愛するわけじゃない！  
まあ、カトレアはいらない  
なら、あたしがもらうね…





そう、きみはダイヤモンドって言うの。  
いい子はきみみたいに積極的じゃないと！  
あら…きみはパールか？  
そんなに焦らなくていいのよ。  
お姉さんはぜくんぶ教えてあげる！





うう…きみたち力入れすぎ。

もうミルクまみれ…

あら？そこの町まで水浸しになっちゃった。まさかあたしのみるくで水没したの？でも…

そう、教育者の立場だと中途半端はダメ。ぜ…絶対彼たちに気持ちよくされたわけじゃないの！

え、これが授乳プレイだと？きみ清纯そうに見えるけど下ネタばっかりね。



こんなに燃え上がる一戦を交えることができ、  
心が高鳴っちゃう…え、もう伝説ポケモンを捕獲  
しに行ったの？まさにあたしを踏み石にしたね。  
あたしに勝つのはゴールじゃなく新たなスタートライン？  
あなたって本当に底なしの野望を持っているトレーナーなのね！  
けど、ちよっと足元に注意しないとね。







ふふっ驚いたわね。

自分の姿に気づいたの？

シンオウ地方の頂点にいるから、

全てのものを見下ろすのは当然。

自分の思うままに全部踏みつぶせるが良い。





あら、町の一部を踏みつぶしたの。

まあ、そんなに心配するほどじゃないよ。

むしろ今の楽しさを味わって。

今のあなたなら何でもできる。

あなたを気持ちよくさせることも

いっぱいあるから、

お姉さんが教えてあげてもいいのよ。





もうアルセウスをゲットしたの？おもでどうー！  
アルセウスも大したことじゃないって？

まあ、それは当たり前のことよね。  
今のあなたこそ最強の存在だから。

つまらないと思ったら、  
この小さな大陸で楽しいことを探そう！





あたしが何をしている？

普通のご奉仕よ。

あたしはあなたに負けたことを忘れてないよね。


「ご主人様」を満足させるのは、

「奴隷」の仕事なの。もう照れちゃってる？

やっぱり経験のない女の子よね。

あたしがちゃんと導いてあげるよ





うふふ、たまにも違う場所で他の子に会ってみたいね。  
あら？足元に見覚えがあるこむしがいる。  
カミツレちゃんに何をしているって？  
これは女の子の秘密よ。  
羨ましければ、あたしに挑んでみて。  
もちろんもしきみたちが負けたら、  
あたしの「ポケモン」になってたっぷりと使わせてもらおうよ！  
うふふ…



## あとがき

はじめましてこんにちは。

この度「敗戦者図鑑:シンオウ編」を手にとっていただき、  
本当にありがとうございます。

「敗戦者図鑑」の続編として、主人公もパールとダイヤモンドに変わりました。

わたしはこの世代の女性キャラ、

特に個性豊かな脇役たちがとても気に入ります。

スモモとシロナばかり描きましたけど…もうわたしの趣味がバレバレですねw

「どうしてポ○モンの同人誌を連続的に発表したか」

と聞きたい読者様がいるかもしれません。

それはもちろん、わたしたちはポ○モンの作品が大好きですから。

小さい頃にはまだ二次元の作品が少ないので、

まさにポ○モン無印がわたしをここまで導いてくれました。

まあ、色んな性癖もできましたけど…

とりあえずこれからもポ○モンの同人誌をどんどん発表したいと思います。

ちなみに、FantiaとPatreonで公式アカウントを作るのを検討していますが、  
クラブのメンバーたちが忙しくてずっとできませんでした。

もしアカウントを作成したら、ぜひ応援よろしくお願いします！

FantiaとPatreonだけで見られる作品をたくさん上げます！

亭風酒寺御

2018.7.8



風御  
酒御

